
造ってしまったみんなの敵はボクの友達

K S R

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

造ってしまったみんなの敵はボクの友達

【Nコード】

N8170H

【作者名】

KSR

【あらすじ】

ボク（02）は友達といつもいっしょ友達はなくてはならない存在だった

ボクの大好きな友達はいつもボクといつしょ

「ねえ、あそぼう。」

「うん、あそぼう。」

ボクの友達はボクを守ってくれる

ボクはへんな男からいじめられるんだ

だから守ってくれる

「今日は何する？」

「なんでもいいよ。」

「じゃあ僕の本、いつしょに読もう。」

「うん、でもボクは本読めないよ。」

「じゃあ読んであげる。」

きつといつの日か友達は死ぬんだろう

「あ！いじめっ子だよ。かくれてて。」

「うん…。」

友達が死んじゃったらボクは…

「オメエに用はねえんだよ。」

「僕の友達をいじめるな！」

「なんだ？あいつは俺が造ったんだ！俺のだよ！」

ボクの友達は今ボクを守るために蹴られても立ち上がる

なんでなの？

「お前はいつもウザいんだよ！あのロボにつきまとっな！あいつは心の無い鉄なんだよ！」

「うるさい！僕の友達をバカにするな！」

ボクは人より体は固いし、年をとらない

なんで？

「うつせんだよ！」

バンッ！

「うう…。」

友達が倒れこんだ

ボクどうしよう

だれかボクを助けて

だれか守ってよ…

「ふう…。…あれ？あいつどこ行きやがった。…まあ、後でいいか…。」

ボクの友達…

死んじゃったの？

「ううう…。」

「大丈夫？」

「……………」

「大丈夫？」

「うう…。うへあ！」

なんだこれ？赤いの？

血なのかな？

「僕は死ぬのかな？」

「…わかんない。」

「…そう。」

「ねえ、本読んでくれないの？」

「……………」

「ねえ、本読まないの？」

「……………」

「どうしたの？」

動かないよ？

「ボクを守ってくれないの？」

「……………」

死んじゃったんだ

ボクも死んじゃうんだ

友達がいなきゃボクはダメなんだ

直してあげよう

ガチャガチャ

ガチャガチャ…

もう何日たつたんだろ

聞く人がいないや

そういえばいじめっ子が来ないな…

…できた…友達

「おはよう。」

「オハ…ヨウ…。」

「本読んでくれるんだよね？」

「ホン…ホン…。」

「本読んでくれないの？」

「ホン…。」

「じゃあボクを守ってくれないの？」

「トモダチ…マモル…。」

「ありがとう。」

「アリ…ガトウ…。」

ガタンッ！

「よおー！久しぶりだなゼロツー？……なんだお前…。」

いじめっ子だ

でもボクには友達がいる

「なんだお前！02につきまとしてたらお前もロボになったのか？
機械オタクもここまできると称賛ものだな。」

「オマエ…イジ…メツコ…。」

「なんだ？まだこりてなかったのか？」

ダダダダ！

「おい！やめろ！」

ダダダダ！

「お…！？な…ん…。」

ドサツ！

「マ…モル…。トモ…ダチ…。」

カタカタ…

友達がボクを守ってくれた

ボクの友達だ

「ねえ、あそぼうよ。」

「アソ…ボウ…。マ…モル…。」

「もう守らなくてもいいんだよ。」

「マモ…ラ…ナキヤ…。ト…モ…ダチ。」

カタカタカタカタ

あ、外に行っちゃった…

なんで？

守らなくていいって言ったから？

「キヤー！…！」

ダダダダ！

ダダダダ！

「誰かー！…！」

ダダダダ！

「マモル…マモル…。トモダチ…。」

カタカタカタカタ

ダダダダ！

「おい！なんだあのロボットは！？」

「どこから現れ、無差別に人を襲っております！」

「今すぐあいつを排除しろ！！」

「はっ！！！」

カタカタカタカタ

「イジ…メツコ…。ト…モダ…チ…。マモラ…ナキヤ…。」

ダダダダ！

「目標確認！打てえ！！」
ドドドドン！

「当たったか！？」

「当たりましたが、装甲が剥がれただけです！」
「なに！？」

友達が打たれてる…

なんで？

「大砲だあ！大砲を使い！」
「はっ！！」

ダダダダ！
ダダダダ！

「マモル…マモル…。」

カタ…カタカタ

「大砲用意出来ました！」
「よし！放て！」

ドン！

ドカーン！！

「様子はどうか？」

「大砲の煙でよく見えません！」

友達がやられてる…

また友達死んじゃうの？

なんで？

どうしてなの？

カタ…カタ…

「大丈夫？」

「トモ…ダチ…。マモラ…ナキヤ…。僕ノヤクメ…。」

「もう守らなくていい。」

「……………」

「もう守らなくていいよ。ボクのこと。」

「……ホン…。」

「本？」

「…ヨ…ンデ…アゲル…。」

「ありがとう。持ってくるね。」

「煙が散りました！ロボットは瀕死の状態です！」

「そうか！もう一発だな…。」

「失礼ですが、あのロボットを破壊せずに捕獲してみてはどうでし

「ようか？」

「なぜだ？」

「あれほどクオリティの高い殺人ロボットは見たことはありません。今後の軍の研究対象に加えてみては？」

「うむ…そうだな。これよりあのロボットを捕獲する！全員で取り囲むぞ！」

ザッザッザッザッ

本取ってきたらへんな人が友達に近づいて来てる

「大丈夫？」

「…ダイジョウブ…。」

「はい、本だよ。」

「読んデ…アゲ…る。」

「おい！ロボットの隣に人がいるぞ！」

「なに！？」

「ぼうや！危ないぞ！」

「ちよつと待て！あいつもロボだ！関節を見る！」

「まとめて捕まえろ！」

あの人たちボクらを捕まえようとしてる

助けて

…いや、助けなきゃ

守らなきゃ！

「もうボクを守らなくていいからね。」

「ホん…読んで…あげる…。」

「待っててね。」

タッタッタッタ

「なんだ！？人間に似てる方がこっちに来る！」

「うわぁ！来るなぁ！！」

「打てえ！捕獲なんていい！とにかく打てえ！」

ドドドドン！

ドドドドン！

「痛い！」

そうだ！

友達！！

「大丈夫？」

「イた…い…。」

「大丈夫だよ。ボクが守ってあげるから。」

「あり…が…とう…。」

ドドドドン！

「どうなった！？」

「人型ロボが殺人ロボを抱きしめるようにして離れません！！」

「大砲をぶちこめ！もろとも破壊しろお！！」

ボクは死ぬんだ…

…でも

君には死なないで欲しかったなあ

結局ボクは君を守れなかった…

「僕は嬉しいよ。」

「え？」

「君が人間の心を持ってくれて…。」

「……ボクも嬉しい…。君が前の君に戻ってくれて…。」

「放てえ！！」

ドン！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8170h/>

造ってしまったみんなの敵はボクの友達

2010年12月17日03時01分発行